

2026年度堺第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

KDB の健診結果でメタボ予備軍、高血圧有所見の割合が都・国より高く、受診勧奨者も多いが、受診行動に至らない人が都・国の3倍と多い。健診や医療受診の割合は低く、治療や服薬に関する理解度も低い。主観的健康観（健康状態は良い）は都・国より高い。このような状況が長年続いているため、介護保険の有病状況で心臓病、脳血管疾患、がんが都に比べて高い。健康寿命の延伸のために、自らの健康に関心を持ち、生活習慣改善に取り組む住民を増やすため、健康づくりや介護予防の情報提供など支援が必要である。

【課題】

生活習慣病等がありながら受診行動に繋がらず、重篤な疾病に至るリスクが高い。近くに医療機関が少ない（病院数、診療所数の割合は都・国より低い）ことも要因と思われる。

(2) 現状

公共交通機関も少なく、交通が不便、地理的には丘陵地帯で、急坂も多く高齢者の外出の妨げになっている。駅近くにあったスーパーが閉店し、日常の買い物に不自由し、支援センターとしても買物支援や移動販売へ協力している現状がある。都営武蔵岡団地では高齢者が多く、1人暮らしや支援の必要な人が多い。相原町は東西に長く、旧くから代々居住している住民や新住民の多い地区など地域特性が異なるため、地区を選定し実態調査を行い、その分析結果に応じた対策を検討し、必要な支援に効果的に取り組む必要がある。

【課題】

自治会、町会、住民の理解と協力を得ないと調査を行うことは困難である。日常業務と並行して各戸訪問（200件程度）を実施し、また、結果を分析して、住民に報告し、住民が納得して取り組む地域活性化の支援策を提示する必要がある。

(3) 現状

認知症の相談は増加傾向にあり、軽度、中程度での対応の遅れや重症化して家族や近隣住民が気づき発見される場合も多く、早期発見、早期対応が望まれる。地域住民や介護予防サポーター、認知症サポーター、見守りネットワーク参加者などが認知症の正しい知識と具体的対応力を習得し、支援センターや関係機関と連携を取りながら、それぞれの立場で協力していくことが求められている。また、困難事例に対応するには、支援センター職員などの専門職が事例検討を重ね、スキルアップする必要がある。

【課題】

一人暮らしや身寄りのない高齢者が年々増加する中、認知症への対応が遅れると事故や事件につながり、生命の危険もある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください

取組名(1)		健康づくりと介護予防に関心を持って行動変容に取り組む意識づけ					
計 画	目標						
	自らの健康維持、フレイル予防に関心を持ち、生活習慣改善や介護予防活動に取り組む高齢者を増やします。						
	2026年度の取組						
	自主グループやサロン活動、各種イベント、講座開催時に、健診やがん検診、歯科健診などの受診勧奨を行い、生活習慣改善を促す支援を行います。介護予防普及啓発事業として、講座や相談会(市民センターまつり、フレイルチェック会など)を行い、介護予防月間イベントとしては、フレイル予防講話や町トレの体験、体力測定などを行います。また、町トレ自主グループ交流会を開催し、自主グループの活動支援を行います。相原町には現在20人余の介護予防サポーターが各種事業で協力していただき、サポーター交流会も昨年に引き続き年間5回開催します。相原東部地区はスマホサポーターを養成し、スマホの有効活用で地域住民のつながりを促進する自主グループ活動を支援していきます。西部地区はオンライン相談拠点として、星槎学園の協力のもと高校生によるスマホの相談会を実施します。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
	活動指標						
	①介護予防普及啓発に関するイベントの開催数 ②介護予防月間イベントの回数 ③シニアスマホ相談会の回数						
	目標値		①2回	②2回	③10回		
	実 績	実績値					
2026年度の成果							
2027年度に向けた課題							

取組名(2)		実態調査に基づき、地域特性に対応した支援活動					
計 画	目標						
	地区を選定し実態調査を行い、その分析結果に基づき地域特性に応じた地域活動の活性化を支援します。						
	2026年度取組						
	昨年度の調査地域である中相原地区の自治会、住民との協働で地域活動の活性化に向けて取り組みます。介護予防普及啓発講座を開催し、介護予防の意識づけを行うとともに、防災、防犯対策としても一人暮らし高齢者などの見守り体制の強化に向け、自治会や地区住民と連携、協議をしていきます。介護予防や地域活動の担い手の把握と協力体制づくりを構築し、町トレなどの自主グループ活動の立ち上げを目指していきます。生活支援対策として、買物支援バスや移動販売車の運行に協力しています。2026年度は、大戸地区高齢者を対象に日常生活や健康に関するアンケート調査を行い、調査結果は法政大の協力のもと分析し、地域住民と情報共有し、地域活動の活性化などに生かしていきます。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○		○	○			
	活動指標						
	①町トレ自主グループの立ち上げ数 ②見守り体制強化のための自治会、住民との協議の回数 ③大戸地区実態調査の回答率						
目標値			①1グループ ②3回		③50%		
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		認知症の理解促進と早期発見、早期対応のための普及啓発活動					
計 画	目標						
	認知症について学ぶ機会や相談場所を増やし、早期発見、早期対応、重症化予防に取り組む住民を支援します。						
	2026年度の取組						
	家族介護者教室や家族介護者交流会、サロンや集いの場で、MCI や認知症について学ぶ取り組みを行います。認知症サポーター養成講座では小、中学生を対象に、演劇を通して認知症の理解促進、普及啓発を図ります。もの忘れ相談や介護者相談などの利用促進と効果的な運用を行い、早期発見、早期対応を目指します。介護予防サポーター（認知症サポーター含む）交流会では、身近な事例などを通して具体的対応を学ぶ取り組みを行います。支援センターの毎朝のミーティングでは、新規相談者や困難事例の情報共有や個々の事例検討を行い、認知症高齢者の権利擁護なども含め職員のスキルアップを図っていきます。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○		○	○	○
	活動指標						
	①家族介護者教室、家族介護者交流会の回数						
	②認知症サポーター養成講座の回数						
③介護予防サポーター（認知症サポーター含む）交流会の回数							
目標値		①3回 ②1回 ③5回					
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度堺第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1)現状:昨年度個別ケア会議は年間5件で、うち居宅介護支援事業所からの相談事例は1件であった。生活保護や後見制度、障害制度から介護保険へ移行など多職種連携が必要なケースが増えている中、相談事例が少ない状況は個別ケア会議の目的や方法が周知されていないのが要因の1つと考えられる。圏域内の居宅介護支援事業所が閉鎖し圏域外の事業所の利用率も増加しており、圏域外の事業所との連携が必須である。各居宅介護支援事業所との連携を継続して行うことにより、圏域内の高齢者がスムーズにサービスの利用につなげられるようにケアマネジャーの後方支援を行っていくことが求められている。

【課題】

- ① 個別ケア会議の普及が出来ていないためケアマネジャーが必要を感じていない。地域課題を把握するためには個別ケア会議で課題の抽出が必要である。
- ② 多問題ケース等を抱えているケアマネジャーの孤立感や負担感が大きい。

(2)現状:エリア全体の65歳以上独居世帯が直近1年間で1705名(R6)から1760名(R7)に増加している。小山町・小山ヶ丘でも消費者被害・特殊詐欺被害が確認され、高齢者本人のみでは解決方法が分からず、困っている様子をケアマネジャーや支援センター職員が自宅訪問時に見かけて対応することがあった。自己決定支援の一助としてACP人生会議の講話を約300名の方に聞いていただいたがほとんどの方が知らないことがわかった。

【課題】

- ① 独居世帯増加に比例して、問題発生時の解決方法に繋がる情報収集を行うことができない高齢者が増加している。
- ② 高齢者の消費者被害・特殊詐欺被害が今後も増えていく可能性がある。
- ③ 独居世帯増加に伴い自己決定支援が受けられない高齢者が増加する可能性がある。

(3)現状:いきいき長寿プラン 24-26によると、「16のまちだアイ・ステートメント」の認知度は0.3%となっている。地域でも、講座やイベント、家族会などでは、認知症の症状や対応については理解されている方が半数以上であったが、「新しい認知症観」や町田市の認知症施策については「知らない」という方が7割であった。「認知症になったら地域では暮らしていけない」という意見も根強く、成年後見制度については、支援センター支援による年間申立件数が1,2件(R1～R5)から直近の2年では7件(R6)、6件(R7)と急増している一方、症状の進行とともに適切な支援が行われるにはまだ課題が多くあるのが現状である。

【課題】

- ① 「新しい認知症観」や町田市の認知症施策の認知度が低い。
- ② 当事者を介護している家族が支援者や支援センターとつながっていない。
- ③ 地域において成年後見制度の正しい理解が進んでいない。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		支え合えるまちづくり					
計 画	目標						
	ケアマネジャーの後方支援、多職種、多機関との連携を強化し、高齢者が住み慣れた場所で安心して生活を継続することができる地域						
	2026年度の取組						
	① エリア内で増えている多問題ケースの課題解決のため、個別ケア会議の必要性をケアマネジャーに理解してもらう必要がある。また事例検討会の開催や社会資源、他機関との制度や活用の仕方等の勉強会を行うことでケアマネジャーが多問題ケースへの柔軟な対応をできるよう支援し、高齢者の豊かな生活、継続的な支援を図っていく。						
	② 昨年度のケアマネジャー交流会にて把握した、ケアマネジャーの共通する悩みに焦点を当て、カスタマーハラスメントや事例を通したシャドーワークなど、ケアマネジャーが孤立せず、お互い相談しやすい関係を築けるようなテーマを決めて交流会を開催する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
						○	○
	活動指標						
	① 居宅介護支援事業所向け個別ケア会議の意義の説明会、事例検討会、ネットワーク会議開催数						
	② 居宅介護支援事業所向け交流会、勉強会の開催数						
	目標値		①年 3 回 ②年 2 回				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2027年度に向けた課題						
	(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)		高齢者が安心して暮らせるまちづくり					
計画	目標						
	困った時に相談でき、解決の手掛かりを得ながら、高齢者自身の力で課題を乗り越えられることができる地域						
	2026年度取組						
	① 戸建てが多く見守りネットワークのない第3町内会地区の80歳以上独居世帯の戸別訪問実態調査と併せて、消費者被害、特殊詐欺被害の内容や防止策に関する情報提供を行う。						
	② 地域住民に向けた消費者被害、特殊詐欺被害の内容や防止策に関する普及啓発講座を開催する。						
	③ ACP普及啓発講話を継続しながらACPの認知度を上げるための広報資料を作成する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○						○
	活動指標						
	① 戸別訪問による消費者被害、特殊詐欺被害に関する情報提供戸数 ② 消費者被害、特殊詐欺被害防止の普及啓発講座開催数 ③ ACP 広報資料作成数						
目標値		①30戸 ②年1回 ③広報資料年2回					
実績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		認知症とともに生きるまちづくり					
計 画	目標						
	「新しい認知症観」が広まり、認知症当事者になっても社会的に孤立することなく、仲間と繋がりながら希望をもって自分らしく暮らし続けることができる地域						
	2026年度取組						
	①自主グループ、地域イベント、老人会など地域住民が集まる場で町田市の認知症施策を基に、「新しい認知症観」についての普及啓発を行う。						
	②家族介護者が簡易に情報にアクセスできるような情報発信ツールを検討する。						
	③地域に向けて成年後見制度についての講座を開催する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○		○		○	
活動指標							
①認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の開催回数							
②QRコードなど簡易にアクセスできる情報発信ツールを用いて情報を発信した回数							
③成年後見制度についての普及啓発講座の開催回数							
目標値			①年3回②年5回③年1回				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度忠生第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

忠生地区の「かしのみ号」は定期運行5年目を迎え、登録者は24名から66名に増加し見守りの場にもなっている。下小山田町では4ヶ所の移動販売が定着したが、コミュニティの場所として活用するには至っていない。図師町は坂が多く広域に渡り、移動に関わるアンケート調査を実施したが、回答できる方は会場まで来られる方に限定されている。

【課題】

「かしのみ号」利用者の高齢化に伴い認知症の方への対応が求められる。住民主体で運営を続ける為の後方支援が必要。図師町など新たに移動支援に取り組む必要のある地域では、複数の場所でニーズ把握を続けると共に、自治会やまちづくり協議会等と課題を共有し、課題解決に向けた取り組みを実施する必要がある。

(2) 現状

小山田桜台は高齢化率47%とエリア内で最も高く、高齢化対策の取り組みは増えているがばらつきがある。根岸、矢部町は通い場が極端に少なく KDB データより運動習慣のない人、外出頻度が週1回以下の人、転倒した人が都平均と比べ5～10%多い。グループ活動のリーダーや介護予防サポーターの高齢化により、キーパーソンとなる人材が不足し活動継続が難しくなっているグループも増えている。

【課題】

通い場の少ないエリアや地理的な要因により、グループ活動に参加できない方に対して、見守り活動の普及等アプローチ方法を検討する必要がある。根岸、矢部町は運動習慣が少ないことが転倒リスクにつながっている。フレイル予防に取り組む場の立ち上げと、同時にキーパーソンの発掘も必要。

(3) 現状

「8050 問題」に起因する複雑な相談は増加する一方である。連携を必要とする機関も増えており、スムーズな連携ができるよう地域の専門機関と情報交換会を継続している。また、身寄りのない高齢者の救急搬送や入院時の対応を、ケアマネジャーが個人的な負担で補っているケースも続いている。救急搬送時の対応について救急隊へヒアリングを実施し、救急医療情報キットの活用が有効であることがわかっている。

【課題】

複数の機関が関わる複雑なケースでは、各機関の役割や責任範囲が明確でないと必要な支援が停滞したり抜け落ちるリスクがある。救急搬送時にケアマネジャーの個人的な負担で補われている実態についても、医療機関へヒアリングを行い各機関の役割を明確化していく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		移動困難な地区に対するニーズの把握と解決に向けた働きかけ					
計 画	目標						
	移動困難な地区の課題が明確になり、既存の移動支援、買い物支援が継続できる。						
	2026年度の取組						
	①移動困難な地区の現状やニーズを把握し、移動支援の事例を周知する。 ②買い物バス「かしのみ号」の後方支援を継続する。 ③買い物バス「かしのみ号」の利用者、関係者に向け認知症や介護の理解を深める。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○		
	活動指標						
①図師町出張相談会の開催数 ②「かしのみ号」実行委員会の開催数 ③認知症サポーター養成講座の開催数							
目標値		①3回 ②4回 ③1回以上					
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2027年度に向けた課題						
(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		高齢化が進む地域での地域づくり					
計画	目標						
	住民同士が地域の課題を自分事として意識を持ち、支え合って生活できる土台を作る。						
	2026年度取組						
	①小山田桜台で「さくら保健室」と「桜台の暮らしをよくする情報交換会」を継続する。 ②通い場の少ない地域の自治会やキーパーソンを訪問し、地域の活動状況を聞き取り、集い場の立ち上げに向けた働きかけを行う。 ③民生委員と情報交換の機会を持ち、見守り対象者の情報共有や地域の状況を把握する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○	○	○			
	活動指標						
	①「さくら保健室」「桜台の暮らしをよくする情報交換会」の開催数 ②根岸、矢部町、下小山田町内会との話し合い実施回数 ③民生委員交流会の開催						
	目標値		①各6回 ②各1回 ③1回				
	実績	実績値					
2026年度の成果							
2027年度に向けた課題							

取組名(3)		複雑化したケースの解決に向けた専門機関との連携構築					
計 画	目標						
	8050問題に起因する複雑化したケースと、身寄りのない高齢者が抱える課題解決の為、地域の専門機関とスムーズな連携ができる。						
	2026年度取組						
	①複数の機関が関わる複雑なケースの早期解決に向け、各機関の役割や責任範囲を明確にし、課題を共有する為のネットワークづくりを行う。						
	②身寄りのない高齢者が救急搬送時に抱える課題の解決を目指し、医療機関等と話し合いの場を持つ。						
	③地域住民(自治会、自主グループ等)やケアマネジャーに向け、救急医療情報キット活用の普及啓発を行う。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○				○	○	
活動指標							
①「地域の専門機関との情報交換会」開催数							
②医療機関と話し合いの実施数							
③救急医療情報キット作成会の開催数							
目標値			①4回 ②1回 ③1回				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度忠生第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1)現状

2025年度は11件の虐待相談を受けているが、虐待が疑われるが虐待判断に至らない事案は4件、残り7件は虐待事案として市へ報告している。センターの虐待対応会議では常時13件前後の経過を確認し、支援方針を決めている。虐待者は何らかの障がいを持っている人が多く、実際に行っていた行為が虐待に該当するといった認識がなく、必要な支援機関などにつながっていないことや、養護者自身の相談窓口を知らない当事者や住民がいることがわかった。

【課題】

養護者(虐待者)が、自身の必要と思われる支援機関の存在を十分に認識していない。当事者(養護者や被虐待者など)へ関わりのある医療及び介護事業所や近隣者、関係者も同様に、相談窓口など支援機関の存在を十分に把握できていない。

(2)現状

高齢化率と高齢者のみ世帯の割合の高さが地域の特徴となっており、地域との繋がりが少ない高齢者が多い。自治会の組織力や民生委員の配置状況など、担当エリア内でも地域差が大きい。

誰に相談してよいのかわからず、介護や生活で困りごとを抱えたまま暮らす世帯も多い。生活上の困りごとがあっても情報が届かない、または情報があっても経済的理由からサービス等を利用しない、利用できない高齢者が多い。

【課題】

支援が必要な高齢者が有益な情報を得ることができない、または自ら相談し助けを求めないことから、センター介入時には全身状態や生活環境が悪化している場合が多い。

(3)現状

当圏域は高齢化率が34.4%と高く、高齢者の単身世帯も増加。医療機関未受診者は267名と全センターで最も多い。更新者を含めた要介護認定申請者は月平均60件、サービス利用者も月平均34件増えている。

アプローチが難しく、活動の実態把握ができない自治会、町内会がある。

経済的困窮、生活環境の悪化、URやJKKからの安否確認が増えている。

【課題】

高齢化率が高く、要支援、要介護認定者も増加傾向にある。

住民同士のつながりが希薄であり、通いの場も少ない地域が複数ある。

自主グループや介護予防サポーターの高齢化、担い手が不足している。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		権利が守られ、誰もが安心して生活できる地域づくりを推進する。					
計 画	目標	地域に対して広く権利擁護に関する普及啓発を継続し、地域住民の意識向上を図る。 医療機関、介護事業所、関係支援機関等との連携強化を進める。					
	2026年度の取組						
	① 高齢者の権利を守るため、養護者支援を含むチームケアが実践できる地域づくりを推進する。 ② 支援センターより発信する冊子や案内、たよりなどで、虐待防止や消費者被害防止に関する特集を組み、広く地域住民に情報提供する。 ③ 認知症や加齢に起因する記憶、理解判断力の低下にともない、日常生活に支障がある高齢者等の安心安全な生活を守る。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○				○
実 績	活動指標						
	① 地域住民、介護事業所向けに虐待防止に関する講座を開催 障がい者支援センター、保健所などの福祉関係者間で定期的な情報交換会を行い、顔の見える関係づくりを進める。 ② 支援センターより発信する冊子や案内、たよりなどで、虐待防止や消費者被害防止に関する特集を組む。 ③ UR、JKK と協同し、認知症支援や権利擁護の視点を踏まえ、安心安全に生活していくための「情報提供及び説明会」を開催する。						
	目標値		①講座、情報交換会とも年2回 ②年2回 ③年3回				
	実績値						
	2026年度の成果						
(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)							
2027年度に向けた課題							
(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		望まぬ孤立を予防できるグループの立ち上げと伴走、運営支援を行う。 見守り活動を普及し、人から人への情報伝達を活性化させる。					
計 画	目 標						
	① 見守りに関心のある地域の主体(個人や団体)に対し、特性に応じて無理なく見守り活動ができるよう支援する。						
	② 助け合い活動の意見交換会で出た課題を住民と協議し、自主グループ化を進める。						
	③ 情報を届けるルートを増やし、介護や生活で困っている人たちが相談窓口を把握できるようにする。また、困りごとや想いを共有できる場を増やす。						
	2026年度の取組						
	① 見守りに関心のある地域の主体(個人や団体)と、具体的な見守り活動について協議する。						
	② 助け合い活動に関心がある住民と協議を重ね、自主グループ化を進める。						
③ 地域の関係者や事業所、店舗等を介し、情報発信のルートを増やす。 家族介護者交流会、家族介護者教室、シトラスの会など既存の取組を「在り方」から見直す。							
④ シトラスの会の情報提供先を拡大することで、介護者へも情報を届け、参加につなげる。							
当てはまる分野全てに○		見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○			○
	活動指標						
	① 見守りに関心のある地域の主体(個人や団体)と、活動概要や取組地区などを決め、新たに見守り活動を開始した主体の数。						
	② 助け合い活動に関心がある住民と、具体的な活動や課題について協議し自主グループ化した数。						
	③ 新たな介護事業所や店舗へ、相談窓口や介護者が集う場の情報(チラシ等の広報媒体)を設置または掲示した数。						
	④ 家族介護者交流会・教室、シトラスの会は在り方から見直し、ニーズに合致した会を開催した数。						
	目標値			①年2か所 ②1か所自主グループ化 ③年15件 ④年2回			
	実績値						
実 績	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		フレイル予防・介護予防の普及啓発を行い、健康づくりや生きがいづくりに取り組む。					
計画	目標						
	① フレイル予防・介護予防の普及啓発を推進する。						
	② 自主グループ立ち上げ、ちょい足し学習プログラム等の自主グループ継続支援を行う。						
	③ 地域と連携し、高齢者が活躍できる場づくりや多世代交流を図る。						
	2026年度の取組						
	①-1 介護予防普及啓発講座(ミニ講座含む)の実施。						
	①-2 介護予防月間イベントを、近隣大学と企画段階よりコラボして開催する。 木曽あんしん相談室でも、サテライト開催する。						
	①-3 UR、JKK、自治会、町内会と連携し、広報媒体の工夫や掲示等の協力を得ながら情報発信を実施。						
	②-1 町トレ・介護予防教室などで、自主グループ立ち上げ支援を実施。						
	②-2 オンライン出張相談会の実施。						
②-3 UR・JKK・自治会・町内会と連携した、健康づくり講座の企画、実施。							
③-1 町トレ継続支援・ちょい足し学習プログラムの企画、実施。							
③-2 センターだより・イベント情報等の広報活動、社会資源マップの更新・定期配信。							
③-3 介護予防サポーター養成講座開催案内の周知。							
③-4 みんなの輪プロジェクト・地域の医療機関と連携した研修、勉強会を開催。							
当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護	
	○	○	○	○	○		
活動指標							
それぞれ年間企画、実施回数を指標とする。							
目標値			①-1年12回 ①-2年2回 ①-3年4回 ②-1年3回 ②-2年30回 ②-3年4回 ③-1年5回 ③-2年8回 ③-3年7回 ③-4年2回				
実績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度鶴川第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

【金井・金井ヶ丘地区】金井は1～8丁目、金井ヶ丘は1～6丁目とエリア内でも広い面積を占め、高齢者人口も多い。しかし高齢者人口に対する通い場数が足りておらず、そのため地域の活動参加率が市内で一番低く、友人との付き合いや外出頻度もエリア内平均より低い(JAGES,KDBより)。また町内会自治会の規模によっては会館などの設備が揃っていない地区もある。センターで行った新規相談件数の分析でも金井地区は65歳以上の人口比に対する相談割合が2番目に低い現状がある。

【課題】

立地環境により有益な地域資源の有無、移動の利便性が異なるため、閉じこもり・フレイルに陥るリスクが高い地域がある。また、社会参加が低いことから住民同士が気軽に相談する機会も少なく、困り事が潜在化、深刻化してしまう。

(2) 現状

【エリア全体】災害時の対応を事前に話し合うことや、地域の避難訓練の参加率が市内で一番低い(JAGESより)

【金井、大蔵町】災害時用の備蓄を準備している割合がエリア平均より低い(JAGESより)

【薬師台地区】高齢者人口に対して見守り活動を行う住民(あんしん連絡員・協力員、民生委員など)が少ない。

【金井ヶ丘地区】退任、欠員により民生委員がいない。

【課題】

近隣との関係性の希薄化や高齢化からさりげない見守りや緊急時の支援、情報共有の体制が築きにくい。また自らを守るといった自助の意識が低い傾向があり、自身の今後に対する心構え、備えが充分ではない。

(3) 現状

【エリア全体】2025年度の虐待・ヒヤリハット対応ケースの半分以上が認知症の方を介護している家族によるものであった。また家族からの相談では認知症の内容が2番目に多く、相談対象者年齢は80～84歳、75歳～79歳が上位2位である。(新規相談分析より)。

【金井、金井ヶ丘、大蔵町】75歳以上の認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の受講者が少なく、認知症を周囲に知られることに抵抗がある(JAGESより)

【課題】

若い世代のみならず、親や配偶者を介護するような世代にも正しい認知症の理解が不足している。あわせて家族介護者が支援を十分に活用できず、家族内で抱え込む傾向がある。当事者、介護者への地域での包括的な支援体制の構築と地域資源の活用が必要である。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		仲間づくりに繋がる介護・フレイル予防					
計 画	目標						
	複数名で取り組む介護・フレイル予防活動を通じて、身近な困りごとの相談ができるような仲間や友人作りを促進する						
	2026年度の取組						
	・自主グループ立ち上げ支援を行い、通い場を増やす(金井・金井ヶ丘地区) ・地域住民やサポーターへの聞き取りや現地調査等を行い、センター未把握の社会資源があるか、確認する(金井・金井ヶ丘地区) ・把握した社会資源をマップ化し、住民へ活用を促す(金井・金井ヶ丘地区) ・地域ケア推進会議栄養部会でのフレイル予防レシピ発行を継続する。また過去に発行したレシピをまとめて冊子にし、講座等で活用する						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
					○	○	
	活動指標						
	① 通い場立ち上げ支援数 ②社会資源把握の再調査と資源マップの作成の実施 ③ 講座等でのフレイル予防レシピ集の活用事例数						
目標値		①1回 ②それぞれ実施③1事例					
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2027年度に向けた課題						
	(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)		さりげない見守り・支え合いができる地域づくり					
計 画	目標						
	世代や環境に関わらず誰もが地域の一員であることを意識して、必要時には互いに支え合えるよう、日常からの関わりが重要であることを住民に理解してもらう						
	2026年度取組						
	・見守り講座を開催し、住民の理解促進を図る(薬師台地区、金井ヶ丘地区) ・見守り交流会の参加対象者を広げて、様々な活動を行っている住民同士が繋がり、ネットワークが広がる交流会を開催する ・鶴川圏域合同地域ケア推進会議を開催し、在宅避難用の『備えのチェックリスト』を完成させる。またこのリストを高齢者だけでなく、幅広い年代・世帯に活用すべく地域の関係団体と連携を図る ・地域に出向いて支援センターの周知活動(キーホルダー登録会を含む)を行う ・75 歳以上の高齢者のみ世帯、健康診査未受診者世帯に実態把握訪問を行う(金井ヶ丘、薬師台地区)						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○		○		○	
	活動指標						
	① 見守り講座、見守り交流会の開催 ②チェックリスト作成 ③周知活動実施数 ④ 実態把握訪問で本人または家族と対面できた件数						
	目標値			①それぞれ 1 回②作成③10 回④100 件			
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		『認知症とともに生きる』地域づくりの理解促進					
計 画	目標						
	地域住民や介護者が認知症を正しく理解するとともに不安要素となる課題を共有し、地域の支援体制を知って必要時に活用できる						
	2026年度取組						
	・認知症に関する講座等の開催を通じた正しい知識の習得に加えて、地域のサポート体制を知って活用してもらう【金井・金井ヶ丘・大蔵地区】 ・介護者同士の関わり、思いの共有を通じて介護者の心理的負担軽減を図るとともに客観的に自身の介護を見つめる機会を作る ・支援センターの事業や認知症カフェを活用し、支援センターと早期から繋がりをつくり、認知症の進行や生活状況に応じた支援を適宜行う ・地域の支援者同士の情報共有やネットワーク作りの機会を設けて、今後の支援活動の継続・発展へと繋げる						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○				○
	活動指標						
	①認知症に関する(普及啓発、認知症サポーター養成等)講座の開催数②家族介護者交流会・教室の開催数③物忘れ医師相談、臨床心理士相談実施件数④認知症サポーター交流会の開催						
	目標値		①4回 ②6回 ③あわせて18件 ④1回以上				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度鶴川第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1)現状

日々の相談業務や近隣のケアマネジャー、認知症状のある家族からの相談で、介護保険のサービスに繋がらない、サービスの拒否があり困っているなど認知症にかかる相談が増えている現状がある。圏域の相談機関連携会議でも、認知症状や精神疾患の症状があり、他機関でかかわる事例が検討に上がってきている。専門職だけでもなかなか解決に結びつかない事案もあり、同じ悩みを持つ者同士が気軽に相談できる場もなく、本人、家族が孤立しやすい現状がある。

【課題】

認知症の方を介護する家族が、日ごろ感じている悩みや苦勞を話す場所がない。

(2)現状

・鶴川駅周辺(能ヶ谷1丁目)に自主グループが少ない。『駅近くに通いの場があれば通いやすい』『駅近くに通いの場は無いのか?』という住民の声が複数あがっている
・2026年1月1日時点では能ヶ谷全体の高齢化率は24%(能ヶ谷1丁目:18.3%、2丁目20.7%、3丁目21.3%、4丁目18.2%、5丁目27%、6丁目25.1%、7丁目30.7%)
・能ヶ谷町1丁目の単身高齢者は43%(189人中83人)で、うち36%(30人)がココファン鶴川駅前に住んでいる。ココファン鶴川駅前の管理者より、地域のつながりを持てる活動をしたいという声がある。

【課題】

鶴川駅周辺に活動の場が少なく、集まれる場がない。

(3)現状

ここ数年重点地区として関わった三輪地区以外にも、自治会未加入者や単身高齢者に地域情報や支援制度が届きにくいと感じている。特に賃貸住宅居住者や転入者など地域とのつながりが希薄な層では、支援センターの認知度が低く、相談につながるまでに時間もかかり、課題も大きくなり対応に追われることも少なくない。また、民生児童委員の一斉改選で民生児童委員の方たちからも、担当地区の変更などで地域の実態がよくわからないという声も上がっている。

【課題】

高齢者が生活者として利用するお店(郵便局、銀行、コンビニ等)に支援センターの周知が十分ではなく、見守りの目が弱い。また、個々の民生児童委員の担当地区が広くなり、目が届きにくい。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		地域の現状を把握し、認知症の方を介護する家族が孤立しない方法を考える					
計画	目標						
	認知症の方を介護している家族が、お互いの体験を語り合う場、情報収集の場として『認知症家族会』を立ち上げる準備を行う。						
	2026年度の取組						
	① 家族からの情報収集が出来る場を作る ② 圏域の利用者を担当しているケアマネジャーとサービス事業所から、介護者の現状について、情報収集を行う ③ D カフェ・オレンジカフェ・医療機関・薬局に取材とチラシ配布を行う。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○	○	○		○	○
	活動指標						
	① 集まる場の開催回数 ② 居宅介護事業所、介護サービス事業所への取材件数 ③ D カフェ・オレンジカフェ・医療機関・薬局へのチラシの配布件数						
	目標値		① 3回/年 ②3件/年 ③50 枚/年				
	実績	実績値					
2026年度の成果							
(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)							
2027年度に向けた課題							
(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		鶴川駅周辺に通いの場を作り、地域住民の健康意識を高める。					
計 画	目標						
	鶴川駅周辺に自主グループを立ち上げ、自主グループとして継続活動ができる。						
	2026年度 of 取組						
	① 町トレプレゼン、町トレ応援講座を開催 ② 立ち上がったグループの継続支援を実地 ③ 支援センターの広報物を定期的に配布し、支援センターの継続周知を実施						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○				○		
	活動指標						
① 町トレプレゼン講座を開催 ② 町トレ応援講座を開催 ③ 自主グループの活動支援及び広報配布数							
目標値			① 1回 ②1回 ③80部				
実績値							
実 績	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		地域の見守りのネットワーク体制を強化					
計 画	目標						
	自治会・民生児童委員・〇ごとサポートセンター、地域の店舗と協力して、支援の必要な高齢者が速やかに関係機関に繋がる地域づくりを推進する。						
	2026年度取組						
	① 担当地域の自治会と現状把握を行い、情報共有する。 ② 民生児童委員と地域の現状を共有し、双方で連絡が取りやすい関係づくりを行う。 ③ 高齢者が利用する地域の銀行、郵便局、農協などに支援センターのポスターやカードを設置し支援センターの周知を行う。 ④ まちだ福祉〇ごとサポートセンター鶴川と共同で、地域に出向き相談会を実施。						
	当てはまる分野全てに〇	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	〇	〇	〇	〇			
	活動指標						
	① 情報共有した自治会数②民生児童委員との情報交換会の開催数 ③ポスターなど設置できた店舗数 ④開催した相談会の回数						
目標値			① 2か所/年②1回/年③3店舗/年④1回/年				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度町田第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1)現状

2025年度のオートロックマンションで生活する高齢者に係る課題への取り組みと地域ケア推進会議の開催を通して、①見守りや緊急時の安否確認が困難となりやすい、②解錠操作が出来なくなると介護サービスを導入できないという課題が抽出された。その解決策としてICT機器の活用や、マンション管理会社との連携が必要、という意見が出た。今後の協議において管理会社・管理組合との連携が必要であり、情報収集とアプローチを継続している。

【課題】

管理人・管理組合の地域ケア推進会議等への参加は難しいため、各別に連携方法を確立する必要がある。見守り支援ネットワークを実施していないマンションへの見守り意識の啓発が必要である。

(2)現状

自主グループでは高齢化が進み、病気やケガによるメンバー減少が顕著で、世話役の後任も不足している。JAGESでは「気軽に参加できる場」への参加率は高い一方、運営を担う人材が不足している状況が示されている。また、KDBより74歳以下では食習慣の乱れによる健康指標の悪化が見られ、75歳以上では転倒リスクや体力低下が進んでいる。あんしん相談室の移転が必要であり、原町田地区の自主グループ活動場所の減少が懸念される。

【課題】

自主グループの活動基盤を維持するための場所確保と後継者育成が急務であり、併せて生活習慣改善に向けた介護予防支援の強化が求められている。

(3)現状

認知症カフェへの男性介護者の参加が少なく、家族介護者交流会も1名のみである。総合相談において家族会やカフェへの参加を提案しても困っている自覚に乏しく繋がりにくい。男性介護者のニーズ調査のために2025年度に実施したアンケートで、男性介護者の回答より、「介護することは苦ではない、恩返しのため」という意見が多く、介護意欲の高さが見られる反面、介護の代替者がいない・認知症に対する理解の乏しさが顕著に見られた。男性介護者の地域での孤立や行き詰まり・抱え込みへつながる懸念がある。

【課題】

- ・介護を抱え込みやすい男性介護者に対して、適切な情報提供や介護者間の繋がりを作る機会を設ける必要がある。
- ・介護者調査を継続しサンプル数を増やすことで具体的取り組みの検討を行う必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		オートロックマンションに暮らす高齢者の支援体制の強化					
計 画	目標						
	必要時にマンション管理人等と連携が図れる連携体制を構築する マンション住民の見守り意識が向上する						
	2026年度取組						
	① マンション管理人・管理組合への働きかけを継続し、支援センターの役割を周知する ② 管理会社管理人と連携手段の共有を図り緊急時の連絡方法をリスト化する ③ 見守り支援ネットワーク未実施マンション住民向けにあんしんキーホルダーや ICT を活用した見守りの普及を図るため見守り講座を開催する						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○			○			
	活動指標						
	① マンション管理会社へのセンターリーフレット配布 ② リスト作成 ③ マンション住民向け見守り講座の実施						
	目標値			① 15 か所 ②リスト完成 ③一回			
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2027年度に向けた課題						
	(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)		自主グループの活動基盤確保と生活習慣改善に向けた介護予防支援の強化					
計 画	目標						
	自主グループの活動場所確保と後継者育成を進め、地域の通いの場を持続的に維持する。併せて、食生活・運動習慣の改善を目的とした介護予防活動を推進し、地域の健康課題を改善する。						
	2026年度 of 取組						
	①公共施設・民間施設を含む活動場所候補の調査 ②あんしん相談室利用の自主グループ代表者との個別面談による支援ニーズ把握 ③介護予防サポーター養成講座の広報と受講呼びかけ ④上記講座の修了者や地域の担い手候補へ通いの場の参加呼びかけ ⑤自主グループへの継続支援(測定会・情報交換会・世話役交代支援など) ⑥社会資源冊子を活用した通いの場の周知と参加促進 ⑦介護予防講座(食生活・運動習慣改善)の実施						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
					○		
	活動指標						
	①あんしん相談室利用の自主グループ代表者との個別面談実施数 ②町田第1高齢者支援センターエリアで新たに活動することになった担い手の数 ③自主グループへ実施した継続支援の回数 ④食生活・運動習慣改善をメインとした介護予防講座を開催						
	目標値		①個別面談4件実施②2名③12回④介護予防講座1回開催				
	実績値						
実 績	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		男性介護者の地域での孤立を防ぐ					
計 画	目標						
	男性介護者が介護の悩みを気軽に相談でき、認知症に対する正しい知識を得ることで、介護ストレスが軽減される						
	2026年度取組						
	① 介護者アンケートを継続し課題の抽出・要因の分析を行う ①-2 介護者アンケートの実施にあたりケアマネジャーの協力を得る ② 認知症への理解を促進するための講座を開催する ③ 男性介護者が介護者間の交流を図る場を構築する						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○				
	活動指標						
	① 介護者アンケート実施数 ② 講座開催数 ③ 交流会開催数						
	目標値			① 50部 ②1回 ③1回			
	実 績	実績値					
2026年度の成果							
2027年度に向けた課題							

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度町田第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

本町田地域の最南に位置する都営本町田アパートは、全45戸のうち23戸が高齢者世帯。高齢者の平均年齢は80.0歳と高く、28名のうち12名が独居世帯である。エレベーターがない4階建てで、近隣は谷坂が多く、徒歩15分圏内に食料や日用品の販売店がない。2019年に立ち上がった町トレは感染症の流行で活動が休止し、担い手がなく再開のめどが立っていない。対象の地域、さざなみ自治会は活動に消極的で「何もしない方針」との話がある。自治会加入は低く、環境整備などの自治会活動費が不足している。2024年には自転車の盗難が23件あった。防災訓練もない。

【課題】

住民同士の交流が少なく、介護予防への関心や意識が高まりにくい環境で、閉じこもりになるリスクが高い。また、消費者被害および高齢者虐待リスクが高い。

(2) 現状

2025年度の医師による「もの忘れ相談事業」利用者は24件で、利用後新たに活動・交流に至ったのは1件。つながりにくい理由として、場所・時間・内容で希望に沿った活動が見つからない。一方で町田市内には活動グループが多くあり、活動的に過ごしている方も多い。

【課題】

認知機能の低下により、それまでの活動が中断され、外出や交流の機会が減り認知症のリスクが高まる。活動者の声が活動を探している方に届く機会が少ない。

(3) 現状

本町田・藤の台地域の高齢者の主な交通手段には自家用車と公共のバスがある。バスは、①菅原神社前から鎌倉街道を通り色彩の森西園前ルート、②菅原神社から鶴川街道を通る藤の台団地ルート、③菅原神社から鎌倉街道を通り、日向台交差点から南大谷交差点へ向かうルートの3本で、いずれのルートもバス停は大通りに限られる。本町田・藤の台地域に商店やクリニックは少なく(スーパー1店・クリニックは内科医眼科皮膚科の3院)、町田駅・鶴川駅周辺の商店や飲食店、医療機関を利用する方が多い。特に支援が必要な方の移動手段は不足しており、機能低下をきっかけに閉じこもりになる方もある。生活のために認知症になっても運転を続ける高齢者もいる。

【課題】

目的の場所まで移動手段が得られず外出を控え、閉じこもりになるリスクがある。通院手段の事情により、治療が継続されずに病状が悪化するリスクがある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		さざなみ町会地区の実態調査と、介護予防への動機づけを実施					
計 画	目標						
	さざなみ町会地区の高齢者が自身の健康に関心をもち、介護予防に取り組める。						
	2026年度を取組						
	① 都営本町田アパートの高齢者住宅全戸訪問調査と熱中症普及啓発物品の配布						
	② 町トレまたは自主グループの立ち上げ						
	③ 民生委員・町会と共に高齢者向けのイベントを開催し、住民へ高齢者支援センターの活動を周知する						
	当てはまる分野全てに○	見守り ○	認知症 ○	生活支援	介護予防 ○	医療介護連携	権利擁護
	活動指標						
	② 訪問調査の訪問戸数						
	② 町トレ自主グループの立ち上げ数						
③ 民生委員・町会と共に行う高齢者向けのイベント開催数							
目標値			②28 件 ②1 か所 ③1回				
実績値							
実 績	2026年度の成果						
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2027年度に向けた課題						
	(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)		認知症の方と活躍の場を結ぶ取り組み					
計画	目標						
	認知症の方が地域で個性と能力を十分に発揮する。						
	2026年度取組						
	① 町田市内の社会活動の場を冊子「ここからはじめる地域時間(仮名)」にまとめる ② 医師によるもの忘れ相談対象者へ「ここからはじめる地域時間(仮名)」を配布する ③ グループ活動への見学・体験につなげ、活動者の声をダイレクトに届ける						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○					○
	活動指標						
	① 町田市内の社会活動の場をまとめた冊子の作成数 ② 医師によるもの忘れ相談後に活動の場を紹介した数 ③ 町田市内の活動の場へ同行し一緒に話を聞いた数						
	目標値		① 1冊 ② 20回 ③ 5件				
	実績	実績値					
2026年度の成果							
2027年度に向けた課題							

取組名(3)		高齢者の移動手段の創出					
計 画	目標						
	本町田・藤の台地域で高齢者の移動手段の選択肢が増える。						
	2026年度取組						
	① 有償ボランティア「本町田たすけあい」の移動支援立ち上げを支援する ② 高齢者が「タクシーアプリ」を使えるように教室を開催する						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○				
	活動指標						
	① 有償ボランティアによる移動支援の開始の数 ② スマホサロン教室などで「タクシーアプリ」などの講座を行った数						
目標値			① 1か所 ② 3回				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度 町田第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状 東玉川学園地区

昨年度センターが実施した住民アンケート(113名回答)では約9割が暮らしやすいと回答している。一方で「階段や坂が多くて困る」「独り暮らしの見守りやお喋りできる交流の場を望む」という意見が多く挙げられた。JAGES(成瀬台小学校区)によると、ソーシャルキャピタル得点は高く、趣味活動やボランティア、グループ活動への参加意向は市内上位である。しかし、通いの場への参加率は市平均程度にとどまり、プレフレイル割合は市内ワースト3である。地域内は坂や階段が多く、既存の通いの場が限られていることから、身体機能の低下に伴い外出機会が減少しやすい環境にあると考えられる。

【課題】

- ・地理的条件により既存拠点を利用できない住民が存在している。
- ・気軽に立ち寄り、交流できる場が不足している。活用可能な地域資源や候補地の周知が十分でない。

(2) 現状 南大谷地区

近年新たな住宅地の整備が進んでいる。当センター内では高齢化率が毎年微増するも南大谷地区は23.7%と町田市平均より低い水準である。JAGESの小学校区別の町田第六小学校区では、友人知人に会う頻度が低くプレフレイル該当割合が高い傾向がみられる。地区内は広域であり、自治会館や市民広場等の集える場が恩田川沿いに偏在している。また公共交通手段が十分でない地域もあり社会参加の機会が限定されやすい環境にある。

【課題】

- ・公的施設が不足する地域において、集える場を確保する必要がある。
- ・既存の場を活用し、通いの場を増やしプレフレイル該当割合の減少を図る必要がある

(3) 現状 当センター全地区

当センターでは過去5年間にわたり認知症啓発として「本人座談会」(DVD)視聴および意見交換会、映画「オレンジランプ」上映会を実施してきた。しかしJAGESの結果では『家族が認知症発症後地域に知ってほしい』『在宅生活を希望する』との回答割合が町田市平均を下回るエリアが複数確認されている。町トレリーダーからは認知症の人でも通える町トレにしたいという意見があり、認知症観の普及啓発を推進する必要がある。

【課題】

- ・認知症に対する正しい理解の普及啓発を促進する必要がある。
- ・認知症当事者を身近な存在として捉え、自分事として考えられることができる機会を創出する必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		東玉川学園地区での新たな社会資源の場づくり、周知に取り組む					
計 画	目標						
	昨年度新たに見出した、集いの場を介護予防や交流を目的とした通いの場として地域住民に周知を図り、住民主体による新たな集いの場を創出する。						
	2026年度の取組						
	① 新たな集いの場を創出する。 ② 新たな集いの場として周知および利用促進を目的に、センター主催講座を実施し利用促進につなげる。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○	○	○			
	活動指標						
	① 住民主体の集いの場の創設数 ② 新たな集いの場での普及啓発講座実施回数						
目標値			① 年間1ヶ所 ②年間1回以上				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2027年度に向けた課題						
	(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)		南大谷地区で誰でも集える場づくりに取り組む					
計 画	目標						
	地域住民と連携し、新たな集いの場の確保および活用方策を検討する。 昨年度新たに見出した会場で、誰もが参加しやすい集いの場の充実を図る。						
	2026年度の取組						
	① 集いの場として可能性のある場所の発掘および活用検討を行う。 ② 新たな集いの場である友愛荘会場で誰もが参加できる機会を創出する。 ③ 住民の要望に基づく自主活動グループを立ち上げる。						
	当てはまる分野全てに○	見守り ○	認知症 ○	生活支援	介護予防 ○	医療介護連携	権利擁護
	活動指標						
	① 集いの場として活用可能な場所を抽出する ② 友愛荘会場で交流会の実施回数と参加人数 ③ 新たな自主グループ立ち上げ数						
	目標値		① 1 か所 ②年間1回 20名以上 ③1グループ				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに向けた普及啓発に取り組む					
計 画	目標						
	認知症のある人への理解を深め、認知症を自分事として捉えられる地域住民を増やすことで、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを促進する。						
	2026年度取組						
	① 認知症への理解を深め自分事として考えられるよう、地域住民に普及啓発を実施する。 ② 普及啓発講座参加者に対し、認知症観に関する事前・事後アンケートを実施し、意識変容の把握をする。 ③ エリア内のグループホームに協力を得て、地域住民との交流の機会を創出し、当事者との関わりをもつ。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○		○			
	活動指標						
	① 認知症の普及啓発講座の実施回数 ② 認知症観アンケート実施数 ③ グループホームとの交流実施回数						
	目標値		① 年3回以上 ②30件以上 ③年1回				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度南第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状 認知症を受け入れる地域をつくる

昨年度、認知症関連の講座を5回実施。当事者の想いを伝えることで、新しい認知症観の普及に一定の前進がみられた。一方で、担当エリア内の医療機関からの情報によると、認知症であることを「認めたくない」という住民が依然として多いことも判明。総合相談では、自身の認知症を認められず、対応に困った家族が疲弊するケースも多い。また、昨年度実施した家族介護者教室の8割が初参加だったことから、認知症予防への関心は高いことが伺える。

【課題】

物忘れが心配だと言いつらい地域の雰囲気があり、本人や家族の想いを疑似体験できるような普及啓発が必要。また、家族は最も身近な介護を担う存在である一方、負担を多く抱え、支援を必要としている。地域で埋もれている当事者や介護者が支援に繋がり、地域の中で暮らしていくためのきっかけづくりが求められている。

(2) 現状 情報が届かない高齢者の閉じこもり予防

JAGESによると、南つくし野は、要支援、要介護リスクが高く、鬱病の割合、閉じこもりも多く、活動参加意向者が少ない地域とデータが出ている。また、担当地域でも2番目に高齢化率が高く、地域活動の担い手も高齢化し、活動が希薄になりつつあるエリアでもある。広報誌を使って老人クラブや活動に参加する方が増えたが、出張相談会や戸別訪問等により、地域活動やセンターの情報が行き届いていない住民がいることもわかっている。

【課題】

駅周辺の開発により、小川や南町田、鶴間周辺に新しいマンションが増え、高齢者も一定数入ってきているが、自治会の繋がりがなく、情報難民による閉じこもりが発生し、対応が必要。

(3) 現状 ささえあうネットワークづくり

見守り、民生委員の活動に変化があり、不在地域が増えた。また、自治会や町内会、老人クラブ等も役員の高齢化により地域活動の存続の危機が聞こえてきている。自治会消失が昨年あり、自助だけでは心配な高齢者のフォローが難しくなっている。

鶴間、小川は、2020年以降大きなマンションが建設され転入者が増えており、その内の1～3割が高齢者世帯。独自の自治会、管理組合があり、既存の自治会や住民との繋がりが弱い。総合相談でも、参加意欲はあるが、どこに行けばいいかわからない、マンション内で住民同士の繋がりが弱い、誰がいるかも分からないというケースが個別に聞かれるようになった。

【課題】

新しいマンションは転入者が多く、住民同士の見守りの仕組みがなく、交流の場が少ない。見守り関連の担い手の減少も深刻。また、地域の情報を知らないことにより閉じこもりリスクが増加し、発見の遅れが懸念される。閉じこもりの方へどう情報を届けていくかが今後の課題。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		認知症を受け入れる地域をつくる					
計画	目標						
	元気なうちから認知症を正しく理解し、認知症を恐れない地域をつくる。						
	2026年度取組						
	・オレンジみなみ風カルタを活用し地域(学校、自治会、自主グループ、イベント等)へ働きかけを行う。 ・引き続き小学校や地域へ認知症サポーター養成講座を提案し、多世代に向けて正しい知識や新しい認知症観を伝えていく。 ・オレンジみなみ風参加者と企画会議を行い、当事者の想いを地域に発信し、活躍の場となるよう新しい認知症観について一緒に考えていく。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○		○	○	○	
	活動指標						
	① 認知症に関するイベント開催数 ② オレンジみなみ風参加人数(延べ) ③ 家族介護者交流会、教室の参加人数(延べ)						
目標値			① 3回 ②20名③30名				
実績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(2)		情報が届かない高齢者の閉じこもり予防					
計 画	目標						
	地域の担い手を発掘し、住民同士のコミュニケーションによる情報発信を行い、フレイル予防の普及啓発を行う。						
	2026年度取組						
	・マンションや施設を中心に自主グループ立ち上げの案内を行い、地域活動を増やす。 ・買い物困難者がいる地域に移動販売が入るようになったことをきっかけに、町トレや地域の見守り関係者、自治会町内会と連携し交流を行う。 ・介護予防月間や介護予防普及啓発のイベントを開催。また広報誌を活用し、担い手の発掘を行う。 ・既存の自主グループ、活動団体や介護予防サポーター等と連携して、チラシだけではなく住民同士のコミュニケーションにてフレイル予防の普及啓発を図る。 ・社会資源の地域ケア会議を実施し、閉じこもりの方にも情報を届けられるような仕組みをつくる。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○	○	○	○	○	
	活動指標						
	① 介護予防に関する講座新規参加者数 ② 担い手の発掘数 ③ 情報発信の拠点を増やす。						
	目標値			① 15名 ②5名 ③3箇所			
	実績値						
実 績	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		ささえあいのネットワークづくり					
計画	目標						
	ネットワークの網目を密にして支援が必要な方を取りこぼさないようにする。						
	2025年度の取組						
	・マンションの管理組合や地域活動団体、店舗等新規、既存の団体と連携して見守りの普及啓発講座を実施し見守りのネットワークづくりを行う。 ・民生委員との意見交換会を通して見守り体制の確認を行う。 ・センターの周知、心配な方の掘り起こし、活動参加を促すため、民生委員不在地域にて戸別訪問を実施する。 ・多世代とのネットワークづくりの為にオレンジみなみ風カルタを使ってイベントを実施。 ・救急医療情報キット、あんしんキーホルダーを活用し見守り体制を強化。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○	○	○		○	○
	活動指標						
	① 見守り、多職種連携会議開催数 ② 戸別訪問した人数 ③ 多世代へ向けたイベント数						
	目標値			① 6回 ②150名 ③3回			
	実績値						
実績	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度南第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

地域: 南成瀬 1～3 丁目 (介護予防の場の再構築)

成瀬駅周辺は利便性が高い反面、急坂が多く外出の障壁となっている。KDB データでは骨格系疾患を持つ人の割合が市平均を超え、移動の困難さが示唆される。また、JAGES データから 90 歳代以上の高齢者が増加傾向にある。かつて同地区で行われていた「町トレ」は担い手不足で終了したが、2025 年度の調査では「ひふみ町内会館で再開したい」という強いニーズが確認された。しかし、利用規約等の課題により年度中の再開には至らなかった。

【課題】

超高齢化と地形的要因から、近隣に参加したくなる場があることが重要である。活動場所の確保という課題を、町内会との調整や代替場所の選定により解消し、リーダー不在でも継続可能な自主グループの再編が必要である。

(2) 現状

現状: 金森東 1 丁目 / 高ヶ坂都営住宅 (潜在ニーズの発掘と周知)

当該都営住宅は独居高齢者が多いが、民生委員が欠員しており、センターへの相談件数が他地域に比べ少ない。2025 年度実施したアンケート等では、「生活の自己決定」や「認知症」への関心が高い一方で、センターの認知度が低い実態も露呈した。LSA (生活援助員) の配置の有無による情報格差もあり、支援が必要な世帯が孤立している可能性が高い。

【課題】

支援ニーズが潜在化しているため、住民の関心事 (認知症等) を入口とした専門的な啓発活動を行い、信頼関係を構築する必要がある。2026 年度は個別訪問を強化し、相談のハードルを下げる体制整備が必要である。

(3) 現状

金森 1 丁目アパート 10 号棟 (疾病特性に応じた重症化予防)

KDB データ分析の結果、当該地区は「脳血管疾患」や「糖尿病」の既往歴が顕著に多いことが判明した (脳出血既往が 66% の地区があり)。運動習慣 (ウォーキング等) を持つ割合は約 31% あるものの、歩行速度の低下や転倒経験がある層も目立つ。これまでセンターとの接点が乏しかった地区であり、2025 年度の講座を通じてようやく住民と繋がり始めた段階である。

【課題】

一般的な介護予防ではなく、データに現れた「脳血管疾患・糖尿病」の重症化予防に特化した学習会等の専門的アプローチが必要である。2025 年度に構築した住民との接点を活かしアンケートを実施し、住民の状態などを把握していく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		南成瀬地区における「場」の確保と多世代型貢献活動の再編					
計 画	目標						
	町内会館等の身近な場所の活用ができるようになり、介護予防（町トレ）や地域貢献活動が開始し、高齢者が「役割」を持って生活できている。						
	2026年度取組						
	「成功事例を活用した調整会議」の開催：地域ニーズに対する貢献活動の成果（南成瀬中学校のステップルーム支援、作成等）を町内会役員に提示し、「地域の役に立つ活動の拠点」として会館が使用できるよう、利用規約の緩和等を協議する。また、「特定のリーダーに頼らず、会場がなくても実施できる」グループ運営を検討する。 学校・地域施設とのマッチング：2025 年度に調整中であった配膳車カバー作成の他、地域のニーズを集め、南成瀬の住民に繋ぐ。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
	活動指標						
	① 町内会等との会議実施数 ② 特定のリーダーに頼らない自主グループ立ち上げ数 ③ 地域貢献活動への参加者数						
目標値			① 年2回以上、②1 グループ以上、③10 名以上				
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2027年度に向けた課題						
(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		アウトリーチ強化と認知症に関するニーズの発掘					
計 画	目標						
	金森東 1 丁目／高ヶ坂都営住宅地区のセンターの認知度が向上し、認知症などによる孤立リスクのある独居高齢者が早期に支援センターに繋がるネットワークができている。						
	2026年度の取組						
	講座の開催：2025 年度アンケートで関心の高かった「認知症」や「生活自己決定（権利擁護）」をテーマにした出前講座を都営住宅集会所等で実施し、住民との接点を増やす。						
	個別訪問（アウトリーチ）の強化：LSA（生活協力員）が配置されていない棟を中心に戸別訪問を行い、実態把握とセンターの周知を徹底する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り ○	認知症 ○	生活支援 ○	介護予防	医療介護連携	権利擁護 ○
	活動指標						
	① 出前講座・啓発イベントの参加者数 ② 個別訪問実施件数（LSA の配置がない先）						
目標値		① 延べ 40 名以上、②30 件以上					
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		疾病データに基づいた重症化予防プログラムの実践					
計 画	目標						
	金森 1 丁目アパート地区の疾病特性(脳血管疾患・糖尿病)を理解した住民が、自身の健康管理に主体的に取り組み、フレイル予防および重症化予防のための活動が自主グループ化されている。						
	2026年度の取組						
	フレイルチェック会の実施：歩行速度等の身体能力の低下や転倒経験や転倒不安がある層に対し、専門職による身体機能測定を行い、自身の数値を可視化することで行動変容を促す。						
	「学習会」の開催：KDB データで判明した脳血管疾患・糖尿病のリスクに対応するため、栄養・運動・口腔など、医療専門職に登壇頂き、専門性の高い知識を伝える学習会を実施する。						
	生活実態及び課題の抽出：脳血管疾患や糖尿病のリスクが高くなる要因を分析するために、住民に対しアンケート調査(生活習慣と予防的活動など)を実施する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○	○	
活動指標							
① フレイルチェック会の実施数							
② 学習会参加者数							
③ アンケート回収数							
目標値			① 1 回、②25 名以上、③30 枚				
実績値							
実 績	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度南第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状（成瀬台地域）

成瀬台地域は、直近のデータで高齢化率が35.4% 高齢者に占める後期高齢者が70.9%と担当地域の中でも突出して高齢化が進んでいる。加齢に伴う身体機能の低下やバスの運行本数の減少により、買い物など日常生活に必要な外出であっても移動に負担を感じる住民が増えている。また、集会所など集いの場が限られており、行きたいところへ「行きたくても行けない」という住民の声も増えている。

【課題】

加齢に伴う身体機能の低下やバスの運行本数減少により、日常生活での行動範囲が狭まり、人との関わりや地域とのつながりを持つことが難しくなっている。

(2) 現状（高ヶ坂地域）

高ヶ坂1～3丁目地区は、JAGESや見守り名簿などのデータから単身者割合が高い。急坂の多い地形的要因から外出が困難となる高齢者が多く、孤立しやすい状況にある。住民との支え合い連絡会では、自前の自治会館がないことによる交流場所の不足や地域活動の縮小が地域課題として挙げられた。加えて、国籍や年齢に関わらず多様な住民同士が日常的に関わる機会が少ないことによる、相互理解の難しさもうかがえる。

【課題】

徒歩圏内に参加できる活動場所が不足している。

住民同士の交流の機会が減少している。

(3) 現状（全域）

支援センターが関わってきた地域の活動グループのうち、4つの団体が昨年度中に活動を終了している。日頃からの聞き取りでも、活動の継続に不安を感じている団体が引き続き多い。活動中のグループでも、生活支援などを行う地域の活動団体でも、高齢化に伴う担い手不足で、既存の会員の退会や新規加入者の減少が続いており、活動継続への不安や危機感を訴える声が増えている。

【課題】

既存の活動団体の構成メンバーの高齢化と次の世代の加入者不足、担い手不足に伴い、活動の先細りリスクが引き続き、高まっている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		成瀬台地区での外出や交流の機会を広げ、地域のつながりを育む					
計 画	目標						
	「行きたいところ」「やりたいこと」へアクセスできる人を増やす。						
	2026年度を取組						
	・移動の負担が少ない「お家で町トレ（自宅の空きスペースを開放した町トレグループの活動）」を推進する。 ・生活圏内の移動手段確保を目的に、支え合い交通の運行実現に向け、関係機関との連携調整と協議支援を行う。 ・生活圏内のつながりづくりのために、地域住民の自宅前の空きスペースにベンチを置く「軒先ベンチ」の取り組みを活用し、住民主体の交流機会創出と住み開きの促進を支援する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り ○	認知症	生活支援 ○	介護予防 ○	医療介護連携	権利擁護
	活動指標						
	① 「お家で町トレ」グループの立ち上げ数 ② 支え合い交通の運行に向けた協議の支援回数 ③ 軒先ベンチの設置台数						
	目標値		① 2 団体		②12 回		③10 台
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						
(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		高ヶ坂地区での人との交流を生み出す仕掛け作り					
計 画	目標						
	多世代・多文化など多様な住民が交流できる機会づくりを進め、地域内のつながりを広げる。						
	2026年度取組						
	・多様な住民が交流できる新たな通いの場をつくる。 ・「高ヶ坂支えあい会議」で共有した様々な課題に対して、住民と共に参加メンバーを増やしながら解決に向けた取り組みを検討する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○		○	○			
	活動指標						
	① 新たな通い場の立ち上げ件数 ② 高ヶ坂支えあい会議の実施回数						
目標値			① 1件 ②6回				
実績値							
実 績	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

取組名(3)		既存の活動団体の先細りリスクへの支援					
計 画	目標						
	新しいメンバーが既存の活動に参加して、自主グループや自治会、地域の活動団体の活動が活発になり、楽しみとやりがいを感じながら続けられる。						
	2026年度取組						
	・自主グループ情報交換会を開催して、運営上の課題と工夫を共有する。 ・仲間募集をしている活動を広報その他で支援する。 ・地域の各活動団体に介護予防月間地域型イベントへの参加を呼びかけて、団体同士の交流、情報交換を促すことで、活動の活性化を支援する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
	活動指標						
	① 自主グループ情報交換会への参加団体数 ② 広報した団体数 ③ 介護予防月間地域型イベントへの参加団体数						
	目標値		① 15 団体		②4団体		③15 団体
実 績	実績値						
	2026年度の成果						
	2027年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2026年度医療と介護の連携支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 町田市の現状と課題

センターとして考える町田市における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題を記載してください。

(1) 現状

医療依存度が高く、重層的・複合的な課題を抱えた方の在宅療養が増加しているが、総合相談及び後方支援要請の内容から、医療職と介護職が病院の機能や制度を理解していない状況を把握している。

介護専門職から医療機関、とりわけ病院の機能や外来、入院等利用の相談が可能か否かに関する問い合わせは多く、医療機関でも他の医療機関の機能や制度を十全には把握できていない現状がある。

【課題】

医療機関の役割や制度を専門職が十分に理解できていないため、有効な資源活用につなげていないという課題がある。特に病床機能に関する問い合わせや誤解が多く、セミナー等学習の機会も乏しいため、資源利用に繋がりにくいという課題がある。

(2) 現状

総合相談及び後方支援要請の内容から、認知症の周辺症状や問題行動等がある方の地域生活を支えるためには、認知症の臨床経験豊富な医師による診断や指示、更に認知症疾患に特化した医療体制と連携しなければ対応が難しいという現状を把握している。

【課題】

認知症の周辺症状や行動・心理症状(BPSD)への対応には、医師による診断・指示や、認知症に特化した医療体制との連携が不可欠である一方、本人やその家族、キーパーソンの理解不足により支援が難航するケースがあるため、専門職による対応力の向上が求められているという課題がある。

(3) 現状

医療と介護の連携を推進する役割を持つ当センターとして、三師会に所属する医療機関との関係性構築が必要不可欠である。そのため医療機関へ積極的に訪問を行い、コミュニケーションを図ってきた。訪問による関係構築を図ることで、医療機関からの相談比率は増加傾向にある。また、地域型高齢者支援センターから、担当圏域の医療機関との顔の見える関係づくりへの支援の求めがある。

【課題】

医師会、歯科医師会、薬剤師会等に向けて、医療と介護の連携支援センターの役割周知や顔の見える関係づくりを継続する必要がある。また、高齢者支援センターと地域の医療機関との関係づくりを支援する必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		入退院時の医療・介護連携の体制強化	
計 画	目標		
	医療機関の役割や利用可能な資源を専門職が理解するための支援を行い、入退院時の医療・介護連携の体制強化を図る。		
	2026年度の取組		
	急性期病棟・療養病棟・地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟などの病院機能を解説するとともに、MSW の役割や退院支援での具体的な関わりを紹介するセミナーを開催し、入退院時の医療・介護連携の強化につなげる。		
	活動指標		
	セミナー参加者のアンケートに基づく満足度		
	目標値	「セミナーに出席して良かった(役立った)」に対して「そう思う」という回答が70%以上。	
実 績	実績値		
	2026年度の成果		
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2027年度に向けた課題		
	(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		認知症の方への対応、医療介護連携の強化	
計 画	目標		
	専門職が認知症に関する理解を深め、認知症の方が適切に医療を受けながら望んだ地域で生活ができる体制構築を図る。		
	2026年度 of 取組		
	専門職の認知症に関する相談への対応力向上を目指して、認知症疾患医療センターと定期的な会議を持ち、認知症の周辺症状や問題行動等の事例の共有、意見交換を行う。		
	活動指標		
	認知症疾患医療センターとの定例会を実施した回数		
	目標値	定例会の実施 2 回	
実 績	実績値		
	2026年度の成果		
	(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2027年度に向けた課題		
	(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		医療機関と連携協働を図れる体制の構築	
計 画	目標		
	医師会・歯科医師会・薬剤師会に所属する医療機関を中心に訪問を継続し、当センターおよび地域型高齢者支援センターの周知活動を行い、医療機関との顔の見える関係の強化を目指す。		
	2026年度の取組		
	医療機関と連携協働を図れる地域作りを目指し、訪問と広報活動を継続する。取組にあたっては、前年度に新規登録された医師会、歯科医師会、薬剤師会の会員機関への周知活動を重点的にを行い、町田市の資源としての活用を提案していく。さらに、高齢者支援センターの求めに応じて医療機関への同行訪問を実施し、医療機関と高齢者支援センターの円滑な連携促進を目的とした顔つなぎ、橋渡しの支援を行っていく。		
	活動指標		
	医療機関への訪問件数		
	目標値	年間 50 件以上	
	実 績	実績値	
2026年度の成果			
(目標に対して、2026年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)			
2027年度に向けた課題			
(2026年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)
